

平成26年度「全国学力・学習状況調査」 結果の分析と今後の課題について

大阪市立横堤中学校

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくために、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後の取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、大阪市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

1 調査の目的

- （1）義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- （3）以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
横堤中学校では、3年生 116名

3 調査内容

（1）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（2）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
<ul style="list-style-type: none">・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立横堤中学校

生徒数

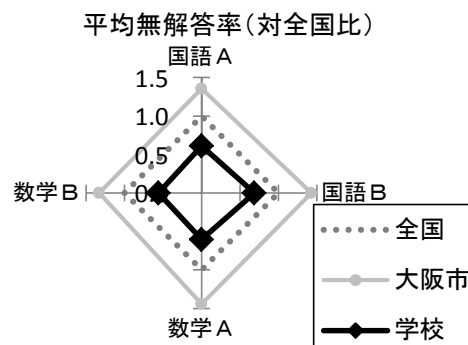
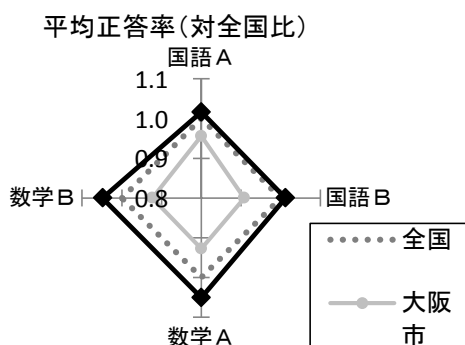
116

平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	80.7	51.6	70.8	62.7
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	1.9	2.4	2.6	6.1
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9



結果の概要

平均正答率では、国語Aで1.3ポイント、国語Bで0.6ポイント、数学Aで3.4ポイント、数学Bで2.9ポイントと全国平均を上回った。平成21年度の全国平均正答率との差を比較すると、国語Aで6.3ポイント、国語Bで9.0ポイント、数学Aで12.2ポイント、数学Bで13.9ポイント高くなり、この5年間で着実に力をつけてきている。また、平均無解答率においても、国語Aで1.3ポイント、国語Bで1.1ポイント、数学Aで1.7ポイント、数学Bで4.8ポイントと全国平均を下回り、学習に前向きに取り組もうとする生徒の学習意欲が伺われる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

習熟度別少人数授業をはじめ、個々の生徒の課題やつまずきを把握し、学習内容や教材、授業形態を工夫してきたこと、若手教員を中心に研究授業等に取り組み、個々の教員の授業力が向上したこと、また、生活指導において教育相談活動を重視し、生徒との個別面談や教員の生徒理解を高める研修、情報交換の機会を多く持つことにより、落ち着いた学習環境づくりに取り組んできたことが、成果として表れてきている。

しかし、基本的な生活習慣や生徒一人ひとりが未来の自分を見つめ自立していこうとする力においては依然課題がある。また、学習面においては、生徒に考えさせる場面、発表する場面を多く取り入れた授業改善に取り組む必要がある。今後、単に計算力や記憶力を問うだけではない「なぜ」や「プロセス」を大切にする授業への改善を図るとともに、ICTを活用した授業に取り組んでいけるよう研究を進める。また、自尊感情や規範意識を高めていけるよう「横堤中学校生徒10カ条」の取組を継続して進めていく。

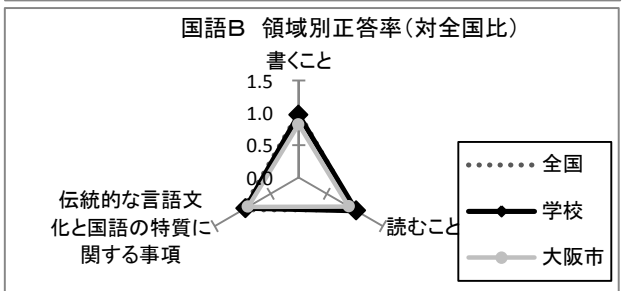
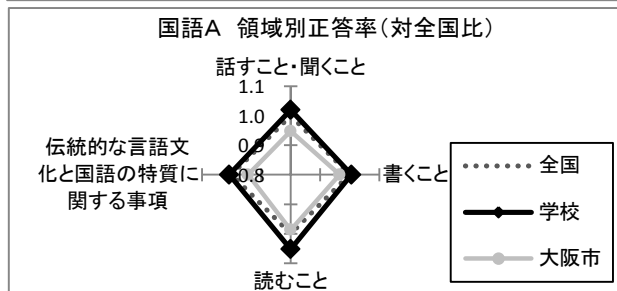
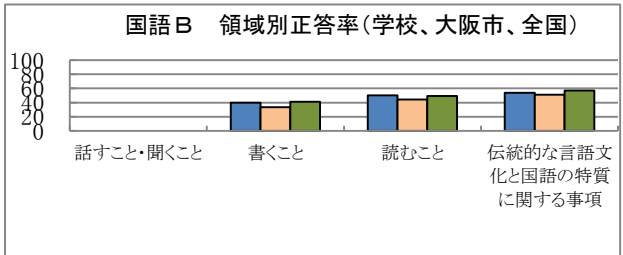
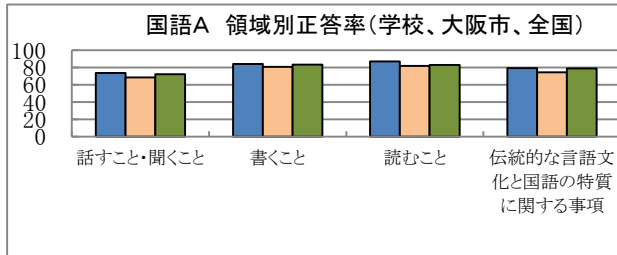
【国語】

結果の概要

A問題、B問題とも平均正答率は全国を上回った。「読むこと」ではA問題で4.3ポイント、B問題で1.2ポイント上回ったが、「書くこと」では、A問題で0.5ポイント上回ったが、B問題で1.3ポイント下回った。

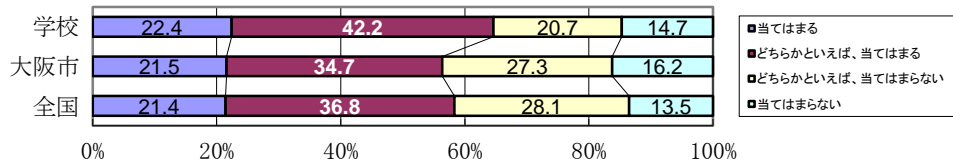
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	4	73.7	68.5	72.3
	書くこと	6	83.9	80.6	83.4
	読むこと	5	87.2	81.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	79.3	74.3	78.7

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	39.7	33.6	41.0
	読むこと	8	50.4	44.1	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	53.9	51.3	56.8

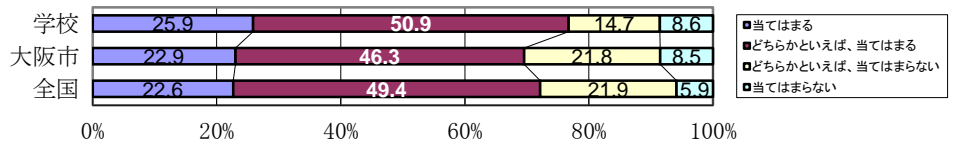


国語に関する「生徒質問紙」

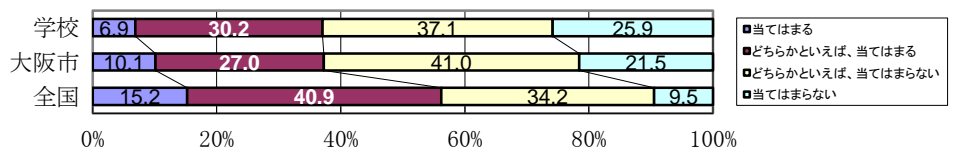
50
国語の勉強は好きですか



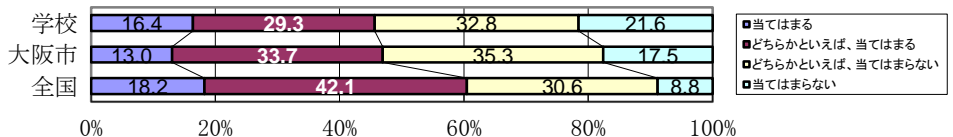
52
国語の授業の内容はよく分かりますか



55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

漢字の書き取り・読み取りの問題に関して、日々の授業の中で繰り返し取り組んできた成果が見られた。一方、「自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「自分の考えを書くとき、考える理由が分かるように気を付けて書いていますか」という項目では全国より10ポイント以上下回っており、目的に応じた自分の考えを話すことができるか、書くことができるかが課題である。

今後の取組

論理的に文章を構築し、それを発表できるような場面を設定した授業展開を工夫する。「国語の授業の内容はよくわかりますか」という項目では全国より高いので、引き続き習熟度別少人数授業などを活用し、生徒個々の実態に応じた指導に努める。

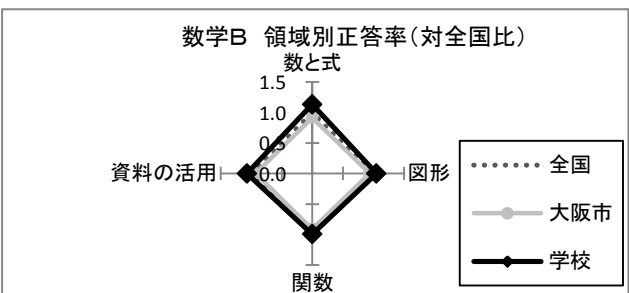
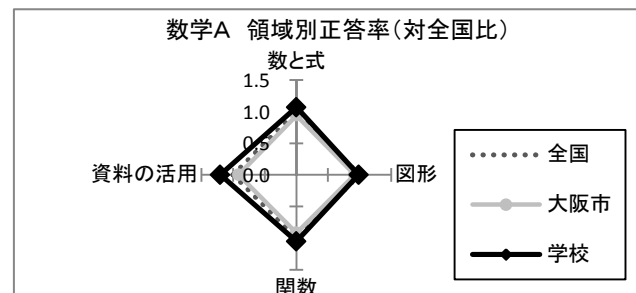
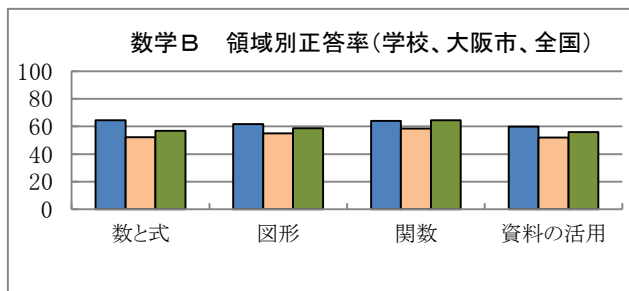
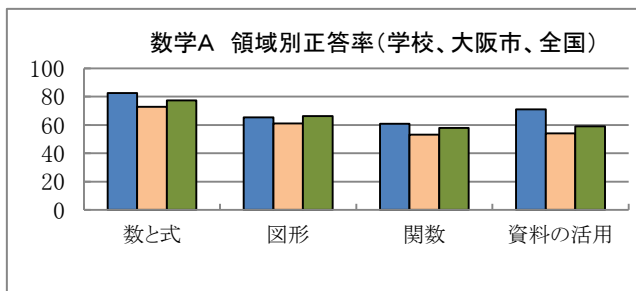
【数学】

結果の概要

A問題の平均正答率は全国より3.4ポイント高く、特に「資料の活用」では全国より12.0ポイントと大幅に上回った。B問題の平均正答率は全国より2.9ポイント高く、「関数」ではやや下回ったが、他の項目では上回り、「数と式」では7.5ポイント上回った。

A 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	12	82.7	72.8
	図形	12	65.4	61.2
	関数	8	61.0	53.2
	資料の活用	4	71.1	59.1

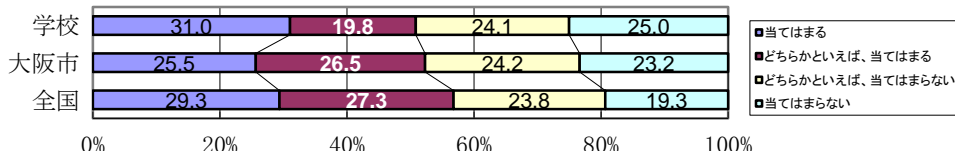
B 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	3	64.4	52.1
	図形	5	61.6	55.0
	関数	5	64.0	58.5
	資料の活用	2	59.9	51.9



数学に関する「生徒質問紙」

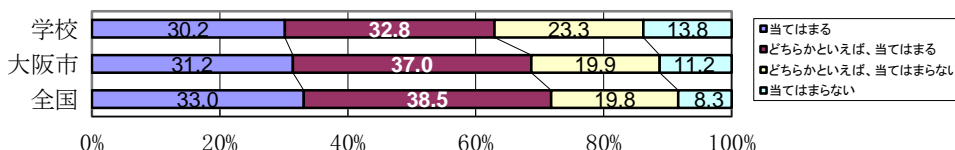
62

数学の勉強は好きですか



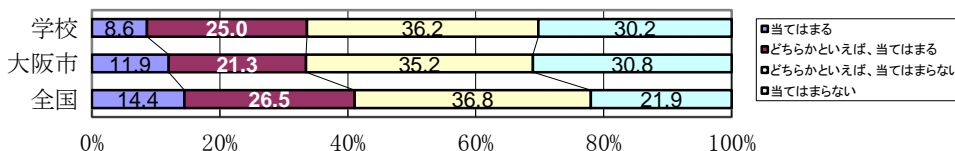
64

数学の授業の内容はよく分かりますか



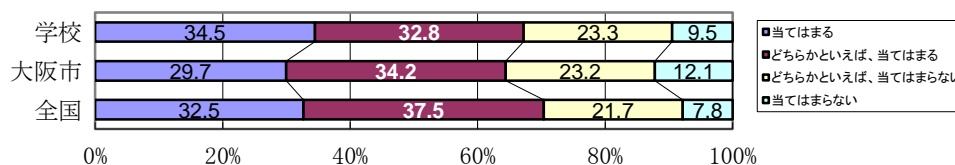
67

数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



70

数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



成果と課題

選択式問題で無解答の生徒がほとんどいないことは、数学の学習に対する意欲の表れである。平均正答率3割以下の生徒も全国より少なく、また、昨年度と比較しても減少し、特にB問題では大幅に減少している。授業での繰り返し学習や宿題プリントの活用により、家庭学習の習慣ならびに基礎・基本が定着してきている。

今後の取組

数学的活動を生かした授業の展開、繰り返し学習や家庭学習習慣の定着をさらに進めるとともに、個に応じた授業展開、ICTを活用した授業改善の工夫を図る。

学びの充実に向けて(1)

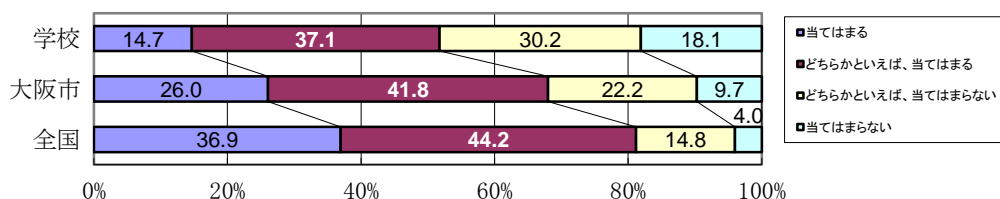
結果の概要

「自分の考えを発表する機会が与えられていた」、「話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答をした生徒が全国、大阪市より下回り、全国との差は顕著であった。

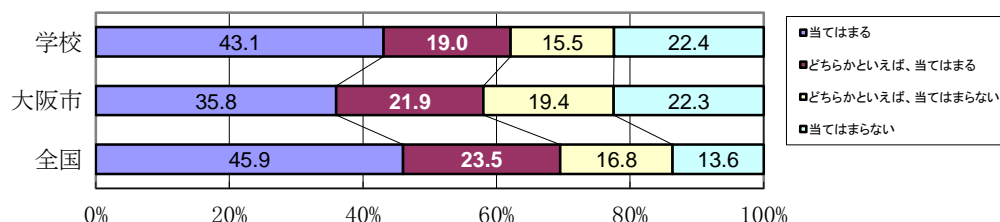
「読書は好きですか」の項目では、「当てはまる」と回答をした生徒は、全国より2.8%下回った程度であったが、「当てはまらない」と回答した生徒は、全国より8.8%、も上回った。

質問 番号	質問事項
----------	------

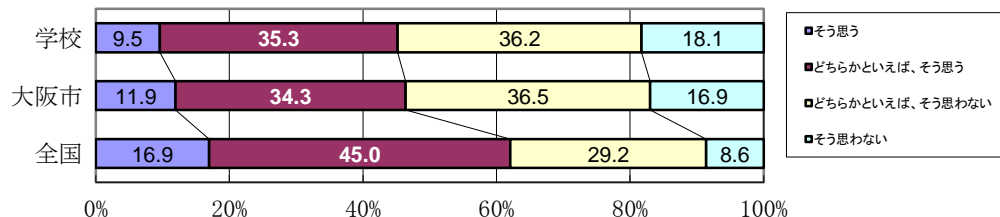
42
1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



53
読書は好きですか



48
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか



成果と課題

習熟度別少人数授業をはじめ、個々の生徒の課題やつまずきを把握し、学習内容や教材を工夫してきたことにより、学力の向上では一定の成果が得られたが、生徒に考えさせる場面、発表する場面を多く取り入れた授業への改善を図る必要がある。

今後の取組

生徒一人ひとりが学習意欲を高められるよう、基礎・基本の定着を図るとともに、単に計算力や記憶力を問うだけではない「なぜ」や「プロセス」を大切にする授業への改善を図る。

学びの充実に向けて(2)

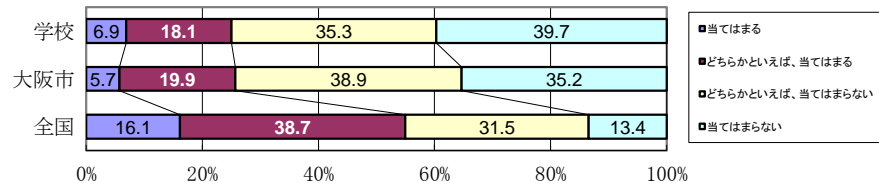
結果の概要

本校も大阪市同様、『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか』の項目について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒が25%と、全国より大きく下回った。

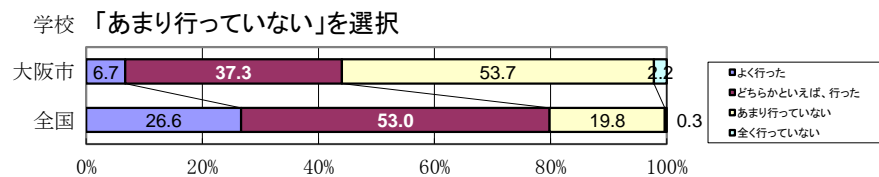
また、「1・2年生に受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の項目でも、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒が全国、大阪市より大きく下回った。

質問番号	質問事項
------	------

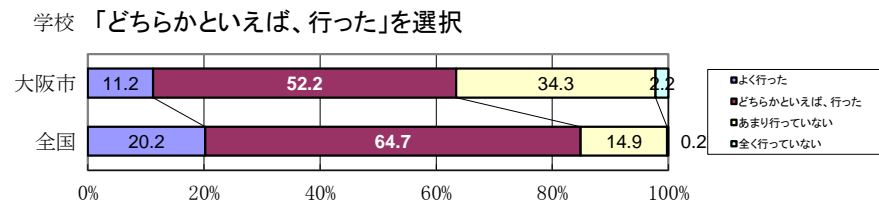
40
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



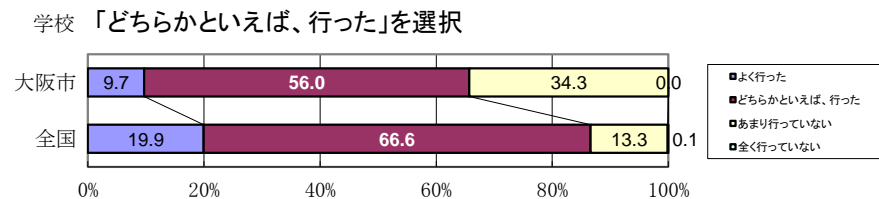
42【学校質問紙】
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



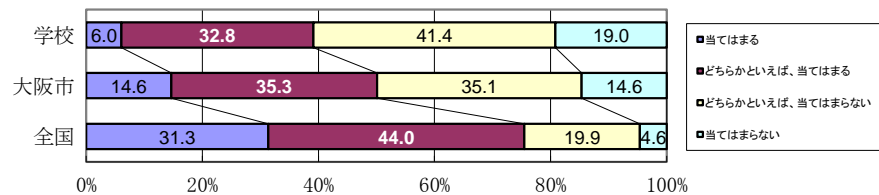
30【学校質問紙】
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



41【学校質問紙】
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43
1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題

「総合的な学習の時間」では、生徒が将来の夢や目標を持って学習に取り組む意欲を高められるよう、あこがれの人物から教えを受けたり本物の文化に触れたりするといった体験的な活動に重点を置いて取り組んできた。個々の生徒の意識を高めることにおいては一定の成果は見られるが、受け身的な学習になっている。今後、自ら課題設定に取り組み、調べ学習などができる工夫改善を図る必要がある。

今後の取組

総合的な学習の時間では、今後も外部人材を活用した体験的な活動に重点を置いて取り組んでいくが、その事前・事後の学習において、生徒が自主的に調べたり考えたりする活動を工夫する。

基本的生活習慣

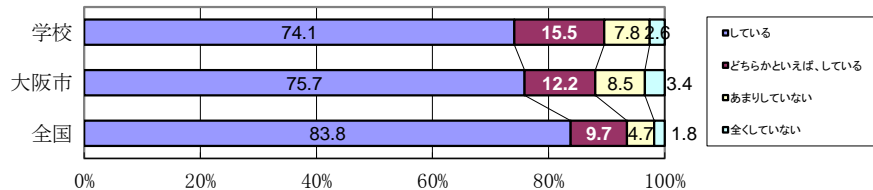
結果の概要

「朝食を毎日食べている」生徒は、昨年度より3.3%上回ったが、全国より9.7%下回った。全国との差は縮まったものの、その差は依然顕著である。

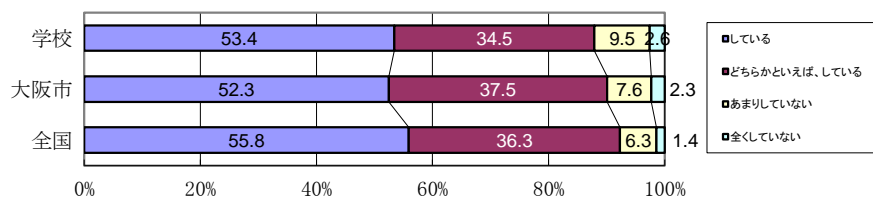
携帯電話・スマートフォンの所持率は92.2%と全国より15.7%上回った。4時間以上使用する生徒が19.0%と全国を8.0%上回ったが、所持者の半数近くが1時間以内の使用である。また、テレビゲームを4時間以上している生徒も19.8%と全国より8.8%上回った。

質問 番号	質問事項
----------	------

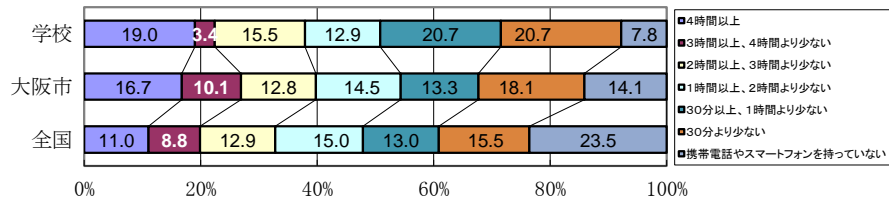
1
朝食を毎日食べていますか



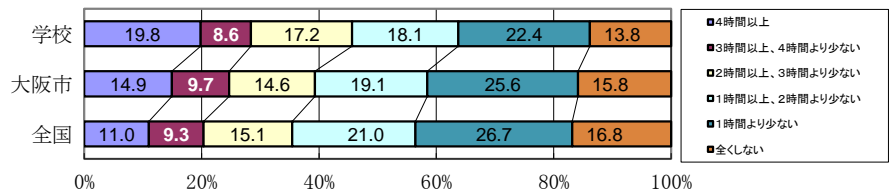
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

生活指導部・健康教育部を中心に、基本的生活習慣の定着に向けた取組により、徐々にではあるが成果が見られてきている。携帯電話やスマートフォンの使用についても、外部から講師を招き、生徒・保護者・教職員と一緒に学ぶ機会を設けたことにより、その成果が感じられる。しかし、どちらもまだまだ課題があり、生徒や保護者の自覚を促すことができるよう、今後も正しい情報を発信していく必要がある。

今後の取組

基本的生活習慣の重要性や携帯電話・スマートフォンの使用にかかわる問題について、今後も継続して周知し、生徒自らが考え、正しい判断ができるよう支援していく。

家庭・学校が課題を共有し、生徒の健全育成に向けたPTA・地域と連携した取り組みを進める。

家庭学習

結果の概要

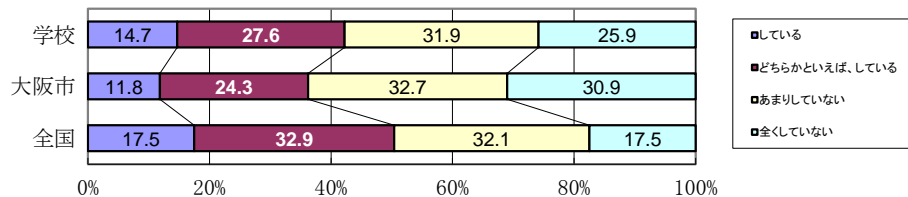
「家で、学校の復習をしていますか」の項目については、「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒が、昨年度より7.3%上回ったが、全国より8.1%下回った。

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目については、「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒が、昨年度より11.2%上回り、全国よりも2.5%上回った。

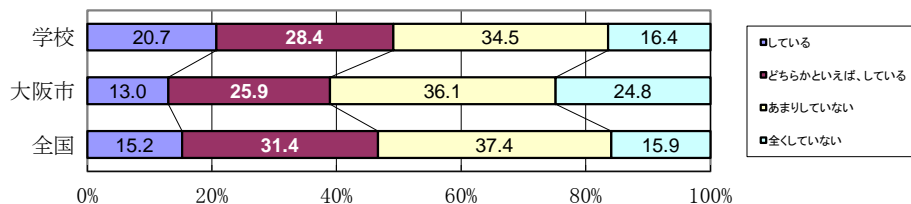
家庭の学習時間では、3時間以上勉強している生徒が全国より14.4%上回り、全くしない生徒は全国より2.3%下回った。

質問番号	質問事項
------	------

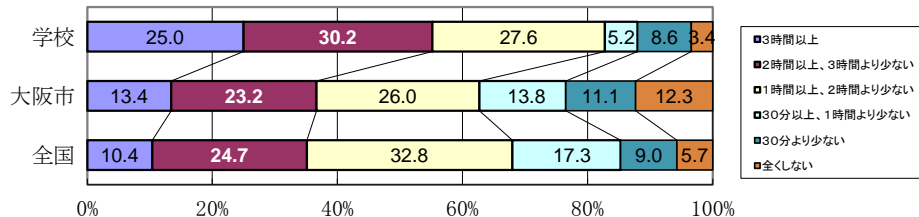
24
家で、学校の授業の復習をしていますか



21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



成果と課題

生徒・保護者の勉強に対する意識は高い。通塾率が高く、8割の生徒が学習塾に通っていることも、家庭での学習の定着につながっていると考えられる。学校では、平均正答率3割以下の生徒を減少させることを目標に、個々の生徒に対応したきめ細かな授業の工夫等に取り組んでいる。今年度、平均正答率3割以下の生徒の割合は、国語Aで1.2ポイント、国語Bで1.7ポイント、数学Aで0.9ポイント、数学Bで5.4ポイントと全てにおいて全国より下回った。また、無解答率が全てにおいて全国より下回っていることも、これまでの取組の成果の表れである。

今後の取組

一定の成果は見られるものの、自分で計画を立てて勉強できている生徒は半数である。自主学習の教材を工夫することや学校元気アップ事業を活用した放課後学習など、今後も継続して取組とともに、さらに充実を図っていく。

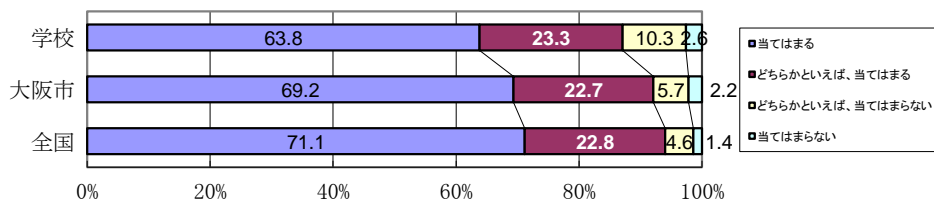
自尊感情・規範意識

結果の概要

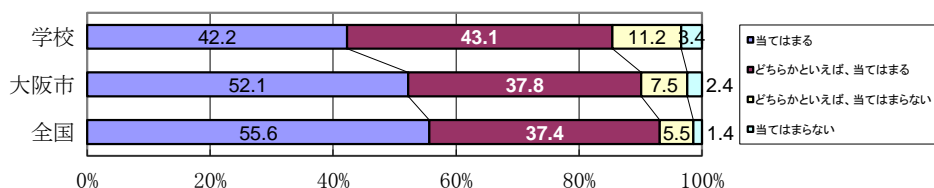
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の項目については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒が、昨年度より1.6%下回り、全国より6.8%下回った。
 「学校に規則を守っていますか」の項目については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒が、昨年度より2.5%下回り、全国より7.7%下回った。
 「先生は、よいところを認めてくれていると思いますか」の項目については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒が、全国より8.5%下回った。
 「自分にはよいところがあると思いますか」の項目については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒が、昨年度より21.6%下回り、全国より18.9%下回った。

質問 番号	質問事項
----------	------

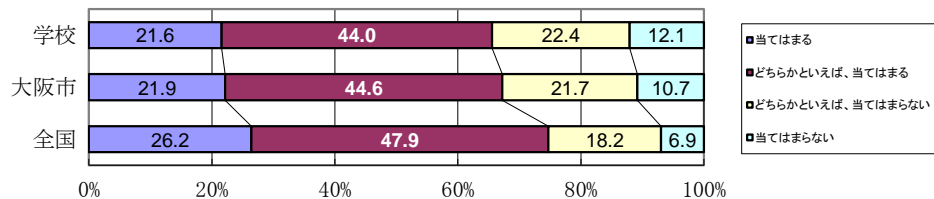
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



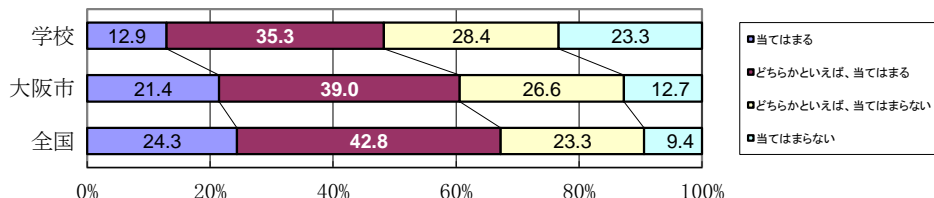
34
学校の規則を守っていますか



28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6
自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

昨年度より「横堤中学校生徒10カ条」を掲げ、本校の校訓、また、学校教育目標の達成に向け、具体的な行動の在り方を示し、その成果も着実に表れている。本調査の結果として、自尊感情や規範意識に課題が見られるような結果となっているが、生徒の判断基準が高いこと、自信の無さが結果として表れている。生徒に自信を持たせるような教員の声掛けや学校行事の取組を工夫する必要がある。

今後の取組

生徒の頑張りや成果を横堤中だより、学校ホームページ、学年だよりや学級だよりで積極的に発信していく。教育相談活動の内容が充実するよう、教職員研修を工夫し、教職員一人ひとりの力量を高める。

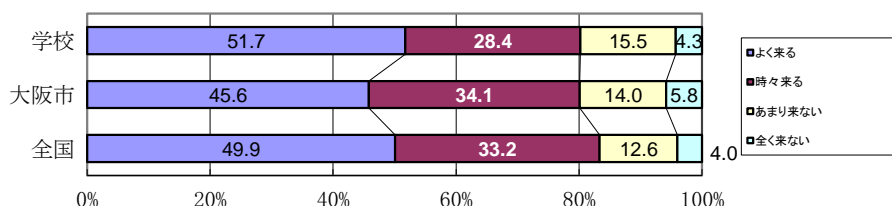
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

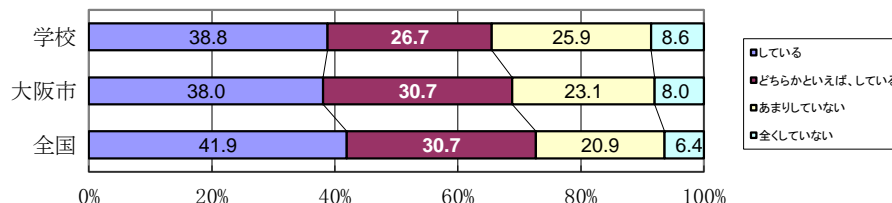
家の人が学校行事によく来る生徒は、全国より1.8%上回った。
 家の人と学校の出来事について話をしている生徒は、昨年度より5.8%上回ったが、全国より3.1%下回った。
 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒は、昨年度より6.7%上回り、全国より0.5%上回ったが、関心がない生徒は全国より1.9%上回った。

質問番号	質問事項
------	------

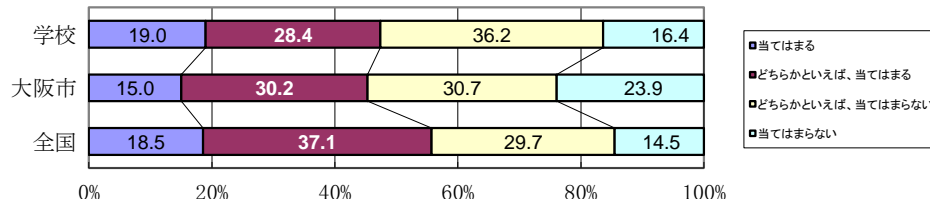
20
家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



成果と課題

本校は、1小1中1地域の関係もあり、開校当初より地域一体となった教育活動に取り組んできている。近年、地域の方を講師に招いた体験学習、地域行事への教職員の積極的な参加など、学校・地域の連携が充実し、生徒の地域に対する意識も高まってきている。また、今年度は、生活指導、人権教育、進路指導の課題について親子で考える「親子学習会」を土曜授業を活用し、これまでに3回実施した。今後、保護者や地域のニーズに応える教育活動を進めていけるよう、保護者・地域との連携をさらに深めていく必要がある。

今後の取組

学校での教育活動や生徒の学習の様子について、横堤中だより、学校ホームページ、学年だよりや学級だよりにより積極的に発信し、家庭や地域での話題提供に努める。
 生徒・保護者・地域のニーズに応える教育活動が推進できるよう、家庭・地域との連携の充実を図る。

学校組織の改善

結果の概要

「運営の計画」に基づき、全教職員が学校の課題や状況を把握し、計画的・組織的に学校運営に取り組んでいる。

授業研究を伴う校内研修は、今後、増やしていく必要がある。

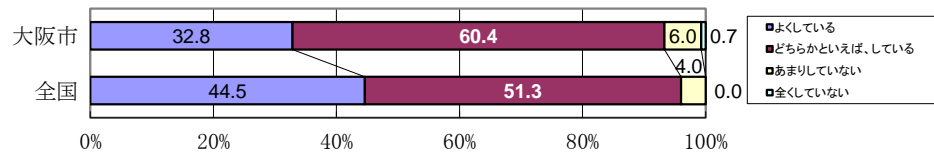
質問
番号

質問事項

98【学校質問紙】

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

学校「よくしている」を選択



96【学校質問紙】

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか

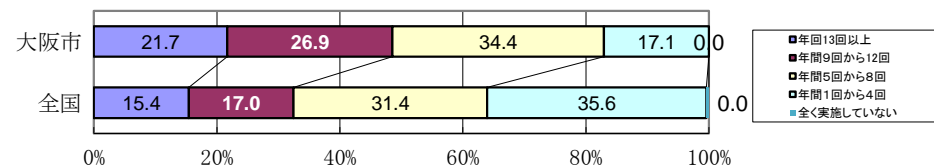
学校「よくしている」を選択



89【学校質問紙】

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校「年間1回から4回」を選択



成果と課題

平成24年度より、生活指導マニュアルを見直し、全教職員が学校の課題や状況を把握し、組織的に取り組む体制が確立した。平成25年度より、「横堤中学校生徒10カ条」を掲げ、本校の生徒としてあるべき姿を示したことにより、生徒、保護者、教職員とも、学校としてめざす方向性が明確になり、様々な教育活動が有効に機能している。生活指導の安定とともに学力も向上してきており、授業力向上に向けた教職員の研修も徐々に進んできている。さらなる向上をめざし、学校の課題を踏まえた計画的・組織的な学校運営に努めるとともに、教職員一人ひとりが授業力・人間力を高めていけるよう教育活動に取り組んでいく。

今後の取組

引き続き教育相談活動を重視し、生徒との個別面談や教員の生徒理解を高める研修、情報交換の機会を多く持つことにより、落ち着いた学習環境づくりに取り組む。

生徒に考えさせる場面、発表する場面を多く取り入れた授業改善に取り組み、単に計算力や記憶力を問うだけではない「なぜ」や「プロセス」を大切にする授業への改善を図る。